

知財の広場

「知的財産の見える化を体験しよう」

日本政府は、デジタル庁を9月に発足させ、未来志向のDXを大きく推進する方向に舵を切りました。このような状況の中、知財業界では、知財情報を活用して経営戦略の策定を支援する「IPランドスケープ」なる分析手法が、注目を浴びています。人工知能、IoT時代を迎え、デジタル化が推進されますと、ビッグデータ等の無形資産の価値が急激に増加していくことが予想されます。これまで、あまり意識しなかった無形資産に対する投資・活用を推進しなければ、正しい経営戦略も構築できなくなるかもしれません。そして、経営戦略と知財戦略は、ご存知のとおり、表裏一体の関係にありますので、経営戦略を正しく構築するためには、これまで各国の特許庁に蓄積されてきた特許データなるビッグデータを活用した『知的財産の見える化』（可視化）が必要不可欠になっていくと思います。

そうは言っても、知的財産の見える化は、敷居が高そうだし、どうやってやるのかイメージが浮かばない方も多いのではないかと思います。

そこで、今回は、知的財産の見える化を体験できるIPランドスケープ機能を備えたサービス^{※1}を見つけましたので紹介します。『IPランドスケープって何ですか？えらい難しそう・・・』という読者の皆様の声が聞こえてきますが、思ったよりも簡単に操作できますのでご興味のある方はチャレンジしてみてください。

掲載されているサービス（「パテント・インテグレーション」）は、人工知能とテキストマイニング技術を応用して、ビジュアルな特許情報の全体俯瞰図等を自動作成するものです。操作に必要な入力は、見える化したい企業の名称だけです。例えば、企業名に某大手自動車会社の名称を入力しますと、某大手自動車会社の特許出願件数の推移、保有特許の全体俯瞰図、テキストマイニングに関連する特徴語、同業・競合企業情報などのレポートなどを見ることができます。

なお、ご利用される際は、特許HP上の使用上の注意事項^{※2}を必ずご一読・ご理解の上、使用の可否を判断してください。

見える化が重要と感じた方は、INPITにおいても特許情報分析事業^{※3}（年4回、公募制）を通して知財の見える化を支援しています。当窓口では、公募に必要な申請書の書き方等のアドバイス等も行っておりますので活用をご検討ください。

（※1）<https://www.jpo.go.jp/support/general/ip-intelligence/intro-17.html>

（※2）<https://www.jpo.go.jp/support/general/ip-intelligence/index.html>

（※3）https://www.inpit.go.jp/katsuyo/patent_analyses/index.html